

## は じ め に

第44回北海道麦作共励会の開催にあたって、関係各位の皆様には絶大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年の第1回審査委員会（委員長：北海道農業研究センター 奥野林太郎 寒地野菜水田作研究領域長）を8月8日に開催し、開催要領、審査基準、推薦調書について検討を行い、本年の北海道麦作共励会の取り組みを決定いたしました。その後、審査委員会の決定を踏まえ、8月16日付けで各地区協会に開催案内を行い、関係機関・団体に、後援依頼と参加推進をお願いしました。

令和5年産の全道の小麦生産面積は13万2千300haで前年より1%増加し、収穫量は72万トンで前年より17%増加しました。

秋播小麦の全道平均収量は、578kg/10aで前年比116%となりました。品質では、1等麦比率99%、品質ランク区分もほぼAランクとなりました。

春播小麦の全道平均収量は、336kg/10aで前年比115%となりました。品質では1等麦比率98%となりました。品質ランク区分もほぼAランクとなりました。

麦作共励会へは、全道の関係者の協力で4点の出展がありました。その内訳は、個人の部秋播小麦第1部（小麦面積20ha以上）1点、個人の部秋播小麦第2部（小麦面積20ha未満）2点、集団の部秋播小麦で1点でした。

本報告書は、各部門の最優秀受賞者と最優秀賞に肩をならべる事例と評価された特別優秀賞受賞者の麦づくりと経営概要をまとめたものです。作成にあたって、奥野審査委員長に審査報告をお願いし、関係地区の審査委員はじめ農業改良普及センター、農協の関係各位に各受賞者の概要をまとめていただきました。

本報告書が皆さんの麦づくりや経営改善の一助になることを願っております。最後になりますが、本年の麦作共励会の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位の皆様に対しまして、あらためて心からお礼申し上げます。

令和6年2月1日

一般社団法人 北海道農産協会

# 第44回（令和5年度）北海道麦作共励会実施要領

## 1. 趣 旨

麦の生産改善を図るためには、麦作農家の良質麦生産意欲の高揚と生産技術及び品質向上、経営の改善を推進することが重要である。このため、北海道麦作共励会を開催し、生産技術あるいは経営改善の面から創意、工夫を持ち先進的で他の範となる麦作農家及び麦作集団を表彰し、その業績を広く紹介するものとする。

## 2. 主催団体

主 催 一般社団法人 北海道農産協会  
後 援 北海道、北海道農業協同組合中央会  
ホクレン農業協同組合連合会、北海道製粉連絡協議会、北海道農産物集荷協同組合

## 3. 対象地域

一般社団法人北海道農産協会会員の地区協会9地区を対象とする。

## 4. 部 門

共励会は個人および集団別に以下の部門毎に行う。

- (1) 個人の部 ①秋播小麦〔第1部〕(20ha以上)  
②秋播小麦〔第2部〕(2ha~20ha未満)  
③春播小麦
- (2) 集団の部 ①秋播小麦  
②春播小麦

## 5. 参加資格

### (1) 個人

次の要件を満たす農家であること。

- 1) 当該年産を含む、3カ年の平均作付面積がおおむね2ha以上であること。  
ただし、秋播小麦〔第1部〕にあつては、当該年産を含む、3カ年の平均作付面積が概ね20ha以上であること。
- 2) 当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。
- 3) 省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。
- 4) 作付品種が北海道の優良品種であること。

### (2) 集団

次の要件を満たす集団であること。

- 1) 生計を異にするおおむね5戸以上で、栽培技術の取り組みが一致性を有し、圃場管理技術の実施等においても、省力化や品質向上面で共同して効率化を図っている集団であること。該当する農業法人も含むものとする。
- 2) 当該年産を含む、3カ年の平均作付面積がおおむね20ha以上であること。  
ただし、春播小麦についてはおおむね10ha以上とする。
- 3) 当該年産小麦の10a当たり収量が当該市町村の平均収量以上であること。

- 4) 省力的な麦作を行っており、品質もすぐれ麦生産技術の向上が顕著であること。
- 5) 作付品種が北海道の優良品種であること。

## 6. 参加手続と全国麦作共励会への推薦等

- (1) 北海道共励会への参加推薦者は、生産地のJA組合長を基本とする。
- (2) 北海道共励会への参加推薦調書は、原則として、市町村米麦改良協会もしくはJA等が地区米麦改良協会を通じて一般社団法人北海道農産協会へ提出する（推薦調書様式は別に定める）。
- (3) 北海道麦作共励会において各賞選考のうえ、各部1位の中から個人・集団1点を、参加資格基準に基づき全国麦作共励会へ推薦する。

### \*全国麦作共励会参加基準

（個人）当該年産麦の作付面積が、2ha以上であること。

（集団）当該年産麦の作付面積が、10ha以上であること。

- (4) 北海道麦作共励会において、原則として過去3カ年以内に最優秀賞を授与されたことがない個人・集団を参加対象とする。
- (5) 推薦調書にある個人情報の取扱いについては、当該生産者（集団にあっては集団の長）の承諾を得て取り進める（承諾書様式は別に定める）。

## 7. 審 査

審査は、別に定める審査基準により行うものとする。

なお、品質評価として、蛋白、灰分、容積重、FNの4項目の分析を行う。

## 8. 審査委員会

この共励会に審査委員会を設け審査にあたる。

審査委員は、関係機関・団体の長が推薦する適職に、主催団体である一般社団法人北海道農産協会が就任を依頼し、本人の了解を得て承認する。

審査委員長は、審査委員会で互選することを基本とする。

## 9. 表 彰

- (1) 審査の結果、その成績が優良と認めたものを表彰する。
- (2) 表彰区分は、審査の内容を踏まえて審査委員会が定める。  
但し、最優秀賞を授与する場合は各部門毎（個人・集団毎）に1点のみとする。
- (3) 受賞者には、賞状ならびに記念品を贈呈する。
- (4) 委員長が必要と認めたときは、北海道知事の表彰下付を申請するものとする。

## 10. そ の 他

- (1) 個人情報については、一般社団法人北海道農産協会が定める「個人情報保護基本方針」に基づき取り扱う。
- (2) この要領に定めていない事項については、必要の都度委員長が別に定める。

## 第44回（令和5年度）北海道麦作共励会審査基準

1. 北海道麦作共励会の審査は、この基準に定めるところによる。
2. 審査は、推薦調書を主体として厳正に行うものとする。  
特に優秀なものについては、その成績を取めた経営と技術要因につき、審査委員の代表により現地審査を行うものとする。
3. 審査対象は個人および集団別に下記の区分毎とする。
  - (1) 個人の部 ① 秋播小麦〔第1部〕(20ha以上) ② 秋播小麦〔第2部〕(2ha～20ha未満) ③ 春播小麦
  - (2) 集団の部 ① 秋播小麦 ② 春播小麦
4. 審査項目毎の配点は次のとおりとする。
  - (1) 収量要素（10a当たり収量）の配点 30点  
〔内 訳〕
    - 1) 令和5年産 全道10a当たり平均収量対比配点（秋・春別） (5点)
    - 2) 市町村10a当たり5カ年平均収量との対比  
過去（平成26年～令和4年産）7年中豊凶年を除く5カ年平均収量対比配点 (15点)  
（秋、春各々の平均収量対比）
    - 3) 市町村10a当たり2カ年平均収量との対比  
過去（令和3年・令和4年産）2カ年平均収量対比配点 (10点)  
（秋、春各々の平均収量対比）  
なお、集団が市町村全体の大きい規模の場合、比較は隣接する市町村の平均収量とする。
  - (2) 品質要素の配点 30点
    - 1) 検査等級 (15点)  
秋播小麦：当年を含む過去3年の上位等級（1等+2等）数量に対する1等比率  
春播小麦：当年を含む過去3年の総収量に対する1等+2等（上位等級）比率  
なお、当年産に重みをつけた配点とする（具体的数字は配点基準内規による）。
    - 2) 品質評価 (15点)
  - (3) 技術要素の配点 20点  
〔内 訳〕  
輪作体系、排水対策、有機物施用、土改資材と融雪材の施用、施肥法、播種法、  
雑草対策、病虫害防除（雪腐病防除を含む）、農業機械利用、収穫・乾燥・調製  
(10項目×2点)
  - (4) 技術の特色・経営の特色・その他特記事項要素の配点 20点  
〔内 訳〕  
技術上の工夫、品質改善の努力、規模拡大・省力低コストの努力、  
経営上の特色、地域での役割と波及効果 (5項目×4点)
  - (5) 委員会の裁量点 10点
  - (6) 合計 110点
5. 順位・表彰区分は、各項目の合計点によるものとし、審査委員会において決定する。
6. その他必要な事項については、審査委員会においてその都度決定する。

## 第44回（令和5年度）北海道麦作共励会審査委員会 名簿

（令和5年11月現在）

氏名	役職名	所属名
奥野林太郎	寒地野菜水田作 研究領域領域長	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター
片山正寿	上席普及指導員	北海道農政部生産振興局 技術普及課（北見農試駐在）
木村篤	主査（普及指導）	北海道農政部生産振興局 技術普及課
石村博之	主任普及指導員	北海道農政部生産振興局 技術普及課（十勝農試駐在）
千葉健太郎	主査（普及指導）	北海道農政部生産振興局 技術普及課（農研本部駐在）
五十嵐裕	事務局 局長	北海道製粉連絡協議会
石井学	業務部兼検査部課長	北海道農産物集荷協同組合
沖崎慎	米穀農産課課長	北海道農業協同組合中央会
吉原孝昭	麦類課課長	ホクレン農業協同組合連合会

## 第44回（令和5年度）北海道麦作共励会審査報告

第44回（令和5年度）の北海道麦作共励会の出展者の麦づくりおよび審査結果の概要について、審査員を代表して報告申し上げます。

令和5年産の全道の小麦生産面積は132,300haで前年より1%増加し、収穫量は719,400トンで前年より17%増加しました。

秋播小麦の全道平均収量は578kg/10aで前年比116%となりました。品質では、1等麦比率99%、品質ランク区分もほぼAランクとなりました。

春播小麦の全道平均収量は、336kg/10aで前年比115%となりました。品質では1等麦比率98%となりました。品質ランク区分もほぼAランクとなりました。

次に北海道麦作共励会の経過について申し上げます。第1回審査委員会を8月8日に開催し、各関係機関・団体に後援依頼するとともに、全道各地に参加推進を行いました。

共励会への出展は【個人の部 秋播小麦〔第1部〕】1点、【個人の部 秋播小麦〔第2部〕】2点、〔団体の部 秋播小麦〕1点、合計4点の応募がありました。

第2回審査委員会を11月9日に開催し、推薦調書をもとに審査を行い、部門毎の賞を選考しました。その後、11月27日までに現地調査を行い正式に各賞を決定しました。以下に、各賞受賞者の麦づくりの概要について紹介します。

### 【個人の部 秋播小麦〔第1部〕最優秀賞】 平取町 岡田 拓未 氏

岡田氏は、農業法人の代表で、畑作55haのほか、水稲13ha、施設園芸（大玉トマト、ほうれんそう）を栽培しています。

輪作体系は、「てんさい-大豆-飼料用とうもろこし-飼料用とうもろし-小麦（ゆめちから）」で、近隣農家4戸との交換耕作行っています。

当地域では、水田転作のほとんどが牧草栽培となっています。岡田氏が小麦栽培を本格化することで、一緒に交換耕作を行っている農家は、てんさい、大豆、加工用ばれいしょ、飼料用とうもろこしに加えて、秋播小麦（ゆめちから）が導入されることにより地域での輪作が構築されています。

令和5年産の小麦収量は571kg/10aで町平均の178%と多収となっています。過去2か年の平均収量は494kg/10aで日高管内平均の136%となっています。総収量に対する等級麦比率は約90%となっています。

小麦生産にあたっては、地域内での適正輪作の実現、定期的な堆肥施用、土壌診断結果に基づく、土壌改良に取り組まれています。また、施肥については、ほ場毎に生育状況を把握し、追肥量をコントロールするとともに、GNSSガイダンスシステムを利用して、高精度、高能率の作業を進めています。

岡田氏は地域を支える若手農業者のリーダー的存在であり、地域農地の有効利用を牽引しています。

### 【個人の部 秋播小麦〔第2部〕最優秀賞】 上士幌町 岩瀬 紀昭 氏

岩瀬氏は、耕作面積40.4haで、秋播小麦・ばれいしょ・てんさい・豆類（小豆・大豆）の4品に加え、肉牛（素牛）の複合経営を展開しています。

令和5年産の小麦（きたほなみ）収量は738kg/10aで、過去2カ年平均収量も660kg/10aで、町平均収量対比114%と多収となっています。総収量に対する1等麦比率も96%となっています。

岩瀬氏は、家族労働を基本とし、春先の繁忙期には町内から短期雇用しています。所有するトラクタ9台のうち4台にGNSS自動操舵装置を導入し、妻や短期雇用者が同時に作業を進められる体制を整えています。

また、土づくりでは、自身が取締役を務める(株)上士幌町資源循環センター（バイオガスプラント）からの消化液を活用しています。

小麦栽培にあたっては、は種精度の確保のため碎土を丁寧に行うとともに、は種深度が浅くなりすぎないように、確認しながら作業をしています。

追肥は、莖数（穂数）や葉色を判断しながら、速効性を期待し硝酸カルシウムを使用しています。また、4年前からドローンの画像を参考にほ場の部分的な追肥量を加減するなど、きめ細かな管理を行っています。

病害虫防除では、ほ場観察により病害虫の早期発見に努めるとともに、予防に重点を置いています。

収穫は、衛星画像を併用しながら集団内（6戸）の全ほ場を巡回し、収穫順を決定しています。

岩瀬氏は、豆類の栽培においても高い栽培技術で高収量・高品質を維持しており、地域の技術力を牽引する存在となっています。

#### 【個人の部 秋播小麦〔第2部〕特別優秀賞】 倶知安町 三好 紳仁 氏

三好氏は、5年輪作（ばれいしょ・春播小麦・てんさい・小豆・秋播小麦、ばれいしょ）に取り組んでいます。耕作面積は29haで、秋播小麦と小豆は6年に1度の作付けであり、土壤病害等の回避と効率的な作業体系を実現しています。

令和5年の秋播小麦収量（きたほなみ）は、690kg/10aで、過去2カ年の654kg/10aと多収を実現しています。また、1等麦比率も100%となっています。

小麦栽培にあたって、春の植付作業前や秋播小麦のは種前に心土破碎を行うなど、排水対策を徹底しています。また各品目の収穫が終わったほ場では、積雪前に必ずサブソイラを施工しています。

また、土壤診断分析結果に基づき土壤改良や施肥を行うとともに、小麦収穫後に堆肥2t/10aを施用しています。

は種作業では、は種深度を均一にするため、整地時の鎮圧を行い、は種床が膨軟になりすぎないように心がけています。

施肥管理では、融雪後すぐに起生期追肥が行えないほ場もあることから、基肥に緩効性肥料を使用し、その後の追肥は生育状況を確認しながら行っています。

大型トラクタを極力使用せず、踏圧軽減に努めており、同時に機械の導入コスト低減を図っています。

倶知安町の畑作組合・野菜生産組合の構成員として多岐にわたり活動しており、小麦以外の分野においても尽力されています。

#### 【団体の部 秋播小麦 最優秀賞】 中札内村農業協同組合 麦豆事業部会

代表 大野 孝幸氏

中札内村農業協同組合 麦豆事業部会（以下部会）は、構成員84戸、経営面積4,572haで、令和5年の小麦作付面積920haとなっています。令和5年の秋播小麦収量は640kg/10aで、近隣町村対比113%、過去2カ年平均でも644kg/10aと多収となっています。

部会では、てん菜、ばれいしょ、豆類、秋播小麦に枝豆・さやいんげんを導入し、バランスの取れた4年以上の輪作体系を維持しています。

畜産農家と連携し、麦稈と堆肥の交換が行われ、村の堆肥化施設では、家畜糞尿や、ばれいしょでん粉工場からの脱水汚泥を堆肥化し、小麦収穫後に投入しています。

小麦収穫後に緑肥作物（エン麦やカラシナ類等）を作付し地力向上を図るとともに、輪作年限の延長による土壤病害の発生対策を推進しています。

てん菜作付時にpH矯正を重点的に実施し、炭カルや生石灰、ライムケーキ等の石灰資材を前年秋や当年春に施用しています。

積雪期に雪踏みや雪割りを実施し、土壤等凍結促進による土壤物理性の改善や野良いもの密度低減に努めています。

追肥では、起生期から莖数測定値や生育センシングに基づいた管理が行われ、良品質な麦生産に努めています。

病害虫防除にあたっては、生産者個人によるほ場観察に基づき、予察情報は生産者間で共有し、地域ぐるみで適正防除に努めている。

収穫は、地域ごとに小麦の生育状況が異なるため、村内を4つの大地区に分け、さらに7つの

小地区にわけ、ほ場ごとに保水分測定や衛星画像やドローン画像により、収穫適期を判定し収穫順を決定しています。コンバインは、メイン機8台にフリー車4台で、5日間程度で収穫しています。収穫機や乾燥施設は共同利用で、特に乾燥貯留施設は設置後30年以上経過しており、低水分収穫により施設の負荷軽減ならびに燃油・電力コストの抑制を進めています。

村内には、無線方式によるRTK基地局が6基あり、GPSガイダンスと自動操舵はほぼ全戸で導入され、1戸あたりの作付面積が43haと十勝管内でも大きい中で、作業精度の確保や家族経営での労働補完として機能しています

また、JAにて配合肥料を製造し、地域に見合った減肥を進めています。また、肥料製造作業は農家後継者が担い、低価格で提供できる体制となっています。

JA青年部では地元小学校で、村の基幹産業である農業についての知識と興味を高めるため、トラクタ等の試乗実施し、自治体主催の親子食育体験教室、その他イベントにも積極的に協力されています。

以上のように、それぞれ受賞された皆さんは、輪作体系を守り、透排水性改善やきめ細かな施肥管理を実践されています。

また、受賞者の皆さんは、地域の仲間と連携しながら、地域を牽引していく大きなちからとなっています。これまでのご努力に敬意を表するとともに、この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

最後に本年度の麦作共励会に関係された皆さんにお礼申し上げるとともに、今後も北海道の麦作振興に尽力されることをご祈念し審査報告とします。

第44回（令和5年度）北海道麦作共励会審査委員長  
北海道農業研究センター寒地野菜水田研究領域長 奥野林太郎



## 第44回（令和5年度）北海道麦作共励会表彰者名簿

※敬称略

### 【個人の部 秋播小麦 〔第1部〕】

表彰名	集 団 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	岡 田 拓 未	平取町	びらとり

### 【個人の部 秋播小麦 〔第2部〕】

表彰名	氏 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	岩 瀬 紀 昭	上士幌町	上士幌町
特 別 優 秀 賞	三 好 紳 仁	倶知安町	ようてい

### 【春播小麦 個人の部】

【出展なし】

### 【秋播小麦 集団の部】

表彰名	集 団 名	市 町 村 名	所 属 農 協 名
最 優 秀 賞	中札内村農業協同組合 麦豆事業部会	中札内村	中札内村

### 【春播小麦 集団の部】

【出展なし】

### <全国麦作共励会への推薦>

部 門	氏 名 ・ 集 団 名
農 家 の 部	岩 瀬 紀 昭
集 団 の 部	中札内村農業協同組合 麦豆事業部会